

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571300148		
法人名	社会福祉法人同朋福祉会		
事業所名	グループホームひかりの園		
所在地	山口県美祢市於福町下3267-1		
自己評価作成日	平成26年12月30日	評価結果市町受理日	平成27年6月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな土地で散歩に出れば、季節を感じる事ができる自然からの贈り物の栗や蔞、蓬などが採れ、利用者と一緒に収穫しおやつやおかずの一品にしている。園の畑では季節の野菜を利用者と共に植え、除草作業や水やりを一緒に行い育てる喜びと収穫の喜びを感じてもらっている。年間行事としてのひな祭りや敬老会は家族間の交流ができるよう家族も出席してもらっている。法行事や地域行事への参加、苺狩りやみかん狩り、花見にドライブ、外食等地域に出かけて行き、その土地の皆さんとふれあい刺激を受けるようにしている。また、日頃の手作業で作った作品は郵便局で作品展を開かせてもらう事で利用者は張り合いを持って作品作りをしている。また作品展を開催することでひかりの園を知っていただき理解していただけるようにしている。利用者のできる力が発揮でき、活躍できる場面作りの工夫をしている。利用者の思いに寄り添い笑顔と笑いのある温かいホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くの山野に山菜を取りに行かれて、おやつやのいぎの葉餅やよもぎ餅をつくられたり、山菜の下ごしらえなどを利用者と職員と一緒にされて、旬のものを活かして食事を楽しんでおられるなど、慣れ親しんだ自然の中で育んできた生活を大切にされ、利用者が地域の中で暮らし続けられるように支援しておられます。利用者は、法人の夏祭りやフェスタ、ケアハウスとの合同行事、地元の敬老会、郵便局での作品展の見学などに行かれたり、中学校の運動会に行かれ競技に参加されている他、手づくり弁当を持つてのみかん狩りや苺狩り、公園、季節の花見に出かけておられるなど、利用者の希望を聞きながら、戸外にでかける機会を多くつくっておられ、利用者が戸外で気持ちよく過ごせるよう支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の中で穏やかな暮らしができるよう「優しい心 ふれあう心 温かい心を持ち、明るく楽しくのんびりと、その人らしさを大切にし、地域と関わりながら馴染みの暮らしが継続できるよう支援する」を理念とし、朝礼時のミーティング等で唱和し理念の共有化を図り、理念に基づいたケアを実践している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。朝礼時のミーティングで唱和し、話し合っ、日常生活の中で地域の人と関わりながら、馴染みの暮らしができるよう、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人行事や地域の行事、小・中学校の行事または日々の散歩等で地域の方との関わりを持っている。また、日常的に食材配達の人やクリーニング店の人が訪ねてこられ、交流がある。郵便局では郵便局職員さんの協力で、利用者・職員の作品展を年1回開かせてもらっている。」	利用者は地元の敬老会に参加している他、郵便局の協力を得て、年1回、利用者や職員の作品展を開催し、見学に出かけている。法人の夏祭りやフェスタには地域の人やボランティアの参加があり、利用者と交流している。中学校の運動会に出かけ、利用者は競技に参加している。小学生が事業所のミニ運動会に参加し、利用者と交流している。ボランティア(歌、踊り、腹話術)の来訪がある他、散歩時に地域の人と挨拶を交わしたり、花や野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は施設内勉強会や認知症サポーター養成講座、外部勉強会に参加し知識を習得、さらに知識を深め、各々居住地において、地域の人からの相談に自分の知識の範囲で応える等、地域への貢献に努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全員が、自己評価・外部評価を実施する意義を理解し、評価は日々のケアの振り返りに活用している。	管理者は、職員に評価の意義を説明し、自己評価をするための書類に全職員が記入してもらい、それを基に3回の話し合いをして、管理者がまとめている。職員は、評価を日頃のケアの振り返りと捉えている。前回の評価結果を受けて、緊急時の対応の勉強会や訓練に取り組んでいると、改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、市高齢課職員、地域包括支援センター職員、消防署職員、警察駐在、民生委員、地域の方を案内し、2か月に1回開催している。利用者の様子や行事、困っている事、災害について協議をし、出席者からはアドバイスや伝達などを受けている。また運営推進会議を通して防災訓練に参加していただくなど施設の運営に活かしている。	新たにコンビニエンスストアの経営者をメンバーに加え、年6回開催している。行事予定、事故報告、利用者の状況、外部評価、防災訓練などについて報告し、話し合いをしている。防災訓練時の協力について話し合いをして、民生委員の参加を得るなど、サービス向上に活かすよう取り組んでいる。	・議題と議事録の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や地域包括支援センター職員さんには入居希望者情報のやりとりや認知症サポーター養成講座開催の協力をしてもらっており、日常的に協力関係が築けている。	市担当課とは運営推進会議時の他、介護認定の更新申請に向いて相談したり、制度の利用方法等について電話で情報交換しているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センターとは運営推進会議の他、電話で困難事例について相談しているなど、連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や施設内勉強会において学び、どのような行為が身体拘束に当たるのかを全ての職員が理解しており、身体拘束は絶対にしない、してはいけないとの認識を持ち業務に携わっている。夜間は夜勤職員が1名になるので、防犯上施錠しているが、日中は所在確認表や利用者の動きを常に察知し、早めの声かけなどの工夫で鍵をかけないケアを実践している。	内部研修で身体拘束について学び、職員は理解して、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠をしないで、外出したい利用者とは一緒に出かけたり、気分転換できるように工夫している。スピーチロックについては管理者が指導をしている他、職員間でも注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を含め、虐待防止マニュアルに基づいて勉強会をし、どのような事が虐待に当たるのか、また虐待を見過ごしていないか、職員間で虐待防止について共通理解をしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している利用者が1名ある。成年後見制度や権利擁護についての知識を得て行きたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所のケアに関する取り組みや、起こりうるリスク、退居時の対応など、本人、家族の不安を伺いながら安心できるよう説明し、理解、納得が得られるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホールに苦情受け付けや、第三者委員を表示している。入居契約時には、苦情受け付け体制や、苦情解決の流れ、苦情申し出先等の説明を行っている。訴えができない利用者の意見は、日頃の様子から察知するよう努め、家族からは来訪時に意見をいただくようにしている。また日頃から話しやすい雰囲気作り、話しやすい関係作りに努めている。	相談、苦情受付体制や処理手続きを定め、第三者委員を明示し、契約時に家族に説明している。玄関に意見箱を設置している。年2回の家族交流会、面会時、電話などで家族の意見や要望を聞いている。ケアについての要望には対応しているが、運営に反映するまでの意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常的に職員の提案や意見を聞き、高齢者部会等で検討し、改善、運営に反映させている。	朝礼時のミーティングや月1回の職員会議等で職員の意見や要望を聞く機会を設けている他、管理者は日常業務の中でも聞いている。職員から、外出の機会を多く持ちたいという意見があり、反映させるよう取り組んでいる。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、日々の労を労い各自が抱えている不安や悩み等が軽減できるよう、また資格取得など向上心を持って働けるよう職場の環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会は研修開催情報を伝え、本人の意欲や経験年数等に応じて研修会参加の支援をしている。また年2回の法人内部研修参加、施設内勉強会など、職員が学べる機会を確保している。	外部研修は職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。今年度は10回受講している。復命報告をして職員間で共有し、資料はいつでも閲覧できる。法人研修は年2回、接遇等について実施している。内部研修は年間計画を作成し、月1回、認知症、風水害、事故防止、緊急時対応、職員倫理等のテーマで実施している。山口県宅老所・グループホーム協会のブロック研修にも参加している。新人職員は先輩職員の指導を受け、日々の業務の中で働きながら学べる様に支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会宇部・小野田ブロックに所属し、勉強会参加等の機会を通じ同業者との交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった時は、本人の思いを良く聴き理解を深め本人の不安が軽減できるよう、そして本人の思いを受け止め、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安に思っていること、本人に対する思いなど時間をかけ良く聴き、ご家族の思いを受け止め良い関係作りができるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話をしっかり聴き、早急な対応が必要な場合は、他事業所のサービスに繋げるような対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の今までの経験、生活の知恵などが発揮できる場面作りに努め、主役になれるシーンの演出に心がけ、本人が安心して気持ちよく一日が過ごせるように工夫している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で本人の様子を伝え、共に本人を支えているとの思いを持っていただけるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人や、兄弟姉妹、親戚の方などが訪ねてこられた時には、お茶やコーヒーを出し、また来ていただけるよう温かい雰囲気作りに努めている。また外出のコースに本人の故郷が近い時はその道を通るようにしている。	家族や親戚の人、知人、近所の人への来訪がある他、自宅周辺のドライブ、家族の協力を得ての外出、外食、墓参り、法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の心身の状態や相性をよく観察、理解しお互いが楽しく関わられるように職員が間に入り工夫している。一人で過ごすことを好む利用者にも、本人の負担に配慮しながらレクや手伝いに誘い孤立しないようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ移動された場合も、会いに行くなどしている。家族にも私たちでお役に立てることがあれば声をかけてくださいと伝えるようにしている。契約が終了されたご家族が時には訪ねて来られたり、電話をかけてこられることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりで希望や意向の把握に努め、利用者の思いは職員間で共有し、思いを尊重して対応している。利用者が思いを伝えやすい雰囲気作り、馴染みの関係作りに努めている。	入居時に、家族から生活歴や職歴、趣味などの情報を得て、フェスシートやセンター方式のシートに記録し、職員間で共有に努めている。日々のケアの中での利用者の言葉や行動をケースダイアリーに記録して、思いや意向の把握に努めている。	・記録の工夫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が話されたことや、家族、親戚、知人からの話から、必要な情報を得るようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方、状態を観察し、できる事への参加を促し、持っている力の引き出しに努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及びご家族に意向を確認し、それぞれの意向を反映しながら職員全員で計画作成している。月1回のカンファレンスでは数名を重点的に検討している。基本的に6ヵ月での見直しだが、状態や介護度に変化があった時は随時見直している。	計画作成担当者や利用者を担当する職員を中心に月1回、カンファレンスを開催し、本人や家族の要望、職員等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている。要望や状態の変化があれば、その都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に残須子とで情報を共有し、変化があった時には朝礼時のミーティングや伝達ノート、申し送りなどで情報を共有し、介護計画に反映している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医への通院介助、選挙の付き添い支援等、その時々ニーズに対応できるように取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署や警察、地域の方、民生委員の方たち、地域の方のレク訪問、他の事業所での行事等に参加して、利用者が安全で豊かな暮らしができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療について確認し、通院や緊急時の搬送先を把握している。かかりつけ医には適切に情報を出し、安心して医療が受けられるように支援している。	入居時に希望を聞き、協力医療機関をかかりつけ医としている利用者には、事業者が受診の支援をしている。以前からのかかりつけ医や他科受診は家族の協力を得て受診の支援をしている。受診時にはバイタルデータ等の情報を主治医に伝えている。受診結果は電話で家族に連絡し共有している。緊急時にはかかりつけ医や協力医療機関と連携して、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化に気付いた時は、法人運営のクリニック看護師に連絡し、指示をもらうようにしている。経過は記録に残し、看護師にも報告するようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人が適切な対応で落ち着いて療養できるように、医療機関に情報を提供している。入院期間中も職員は会いに行き、状態の確認や看護師からの情報をもらうようにしている。家族とも連絡を取りながらできるだけ早い退院に向けての支援をしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学时や申込時に、重度化した場合の対応(ターミナルケアはしていない等)の方針を説明している。契約時にも再度説明し伝えるようにしている。状態に応じ、主治医や看護師、家族と相談しながら、本人、家族が不安にならないように最善を尽くし、次の支援に繋げて行くことをスタッフ全員が理解している。	契約時に重度化した場合の事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、主治医や看護師、関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて方針を共有して、取り組むこととしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	緊急時に備え、定期的な勉強会や慌てないための訓練を繰り返し行っている。初期対応は身につけてきている。年に1回、消防署の協力を得てAEDの取り扱い方と心肺蘇生法の講習会を開催している。	事例が発生した場合は、その日の職員で話し合い、ヒヤリハット報告書や事故報告書に対応策を記録している。朝礼時のミーティングで説明し、共有して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故状況に応じてケアプランを作成し対応している。事故発生時に備えて、内部研修で、事故防止、緊急時の対応(誤嚥、窒息、感染、救急搬送)について勉強会や訓練を実施し、年1回、消防署の協力を得て、救急救命法を受講している。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中と夜間を想定した防災訓練を消防署立ち会いの下、ケアハウスと合同で行っている。避難経路の確認や消火器の取り扱い方、DVDでの防災学習も行い、防災訓練には地域の方の参加協力もある。	消防署の協力を得て年2回、昼夜想定の方火災時の避難訓練をケアハウスと合同で、地域の人や民生委員、利用者が参加して実施している他、年1回事業所独自で風水害の避難訓練を実施している。法人全体で支援協力機関(消防分団、民生委員等)連絡網を作成し、災害時の地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の研修会や施設内勉強会で、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけや対応の仕方を学んでいる。利用者を決して傷つける事のないように、また上から目線で物を言わないように気を付けている。個人情報取り扱いにも気を付けている。	法人の接遇研修や内部研修で学び、職員は理解して一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば、管理者がその都度、指導している。個人情報の扱いに注意し、守秘義務について職員は理解している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が理解しやすい声かけを心がけ、自分の思いを表出しやすいように馴染みの関係作りに努め、自己決定できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の声かけと見守りで、本人の希望や選択に添った、本人のペースで過ごしやすい一日を提供できるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や染毛、外出時の衣服の選択など本人の希望を聞きながら、本人の気に入ったおしゃれができるように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月曜日から土曜日の昼食は法人の配食を利用しているが、朝食、夕食はホーム内で作っている。時には畑で採れた野菜を皆で収穫し献立にプラスして作っている。食材切りや盛りつけ、後片付けを一緒に行っている。またひな祭りや敬老会、お花見弁当、外食など食事を楽しめるよう支援している。	月曜日から土曜日までの昼食は、法人の配食を利用している。朝食と夕食、日曜日の三食は事業所の畑で採れた野菜や山菜、差し入れの野菜などを使って、利用者の好みを聞いて管理者が献立を立てて、事業所で食事づくりをしている。利用者は下ごしらえ、盛り付け、台拭き、お茶くみ、後片付けなど、出来ることを職員と一緒にしている。季節の行事食(雛祭り、忘年会など)や年数回の弁当持参の外出、年2～3回の外食、おやつづくり(ぜんざい、いぎの葉餅、草餅など)の他、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てた献立をベースに、ホームでの工夫も入れて作っている。本人の状態に合うようにミキサー食や刻み食(小刻み、超小刻み)、お粥、トロミ剤の使用などを提供し食べやすい工夫をしている。食事摂取量、水分補給量もチェックし適量が摂取できるようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとり一人の力量に応じて口腔ケアの支援をしている。自分でできる人は自分でもらい、必要に応じて口腔清拭を行い、義歯の洗浄や消毒は毎夕食後に行っている。歯ブラシ、コップは定期的に消毒し清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンを把握し、時間を見ながらトイレの声かけやトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の声かけや、飲食物の工夫、適度な運動の促しで便秘の予防に心がけている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	10時～12時の間で、週3～4回の入浴ができるように支援している。一人で入りたい希望がある人は一人で入ることができる。必要に応じて特浴や シャワー浴、清拭等も行っている。ゆず湯や菖蒲湯で季節を感じてもらい、入浴剤の使用でゆっくりとリラックスした入浴を楽しんでもらえるように工夫している。	入浴は、10時から12時までの間、希望に応じて週3～4回入浴できるよう支援している。入浴したくない人には、職員を交代したり、声かけの工夫や時間を見計るなどして対応をしている。利用者の体調によって清拭、シャワー浴、足浴、特浴の対応をするなど、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動への参加を促し、生活リズムが整うよう支援している。安心して休むことができるように話をゆっくり聴く等、精神的な安定が図れるようにしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がおきないように、服薬前には名前と朝、昼、夕を口に出して確認し、本人に渡すようにしている。利用者の薬情報は個別にファイルし、使用目的や副作用、用量や用法がすぐに確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のできる事に着目し、生け花、貼り絵、手芸や塗り絵に参加して作品を作ってもらっている。郵便局での作品展や、法行事のフェスタでの展示を目標に張り合いを持って取り組まれている。また法人内の法話の会や隣接するケアハウスでの合同行事や3B体操、いきいき音楽教室への参加で気分転換を図ることができている。また職員と一緒に旬の食材を使った料理や昔懐かしいお菓子作りをして喜んでもらっている。	テレビ視聴、新聞や雑誌、本を読む、日記を書く、畑の草取り、洗濯物たたみ、食事の下ごしらえ、台拭き、後片付け、おやつづくり、山菜取り、花の水やり、季節行事、ぬり絵、貼り絵、習字、刺し子、パッチワーク、生け花、ドラム、カルタ、将棋、脳トレ(計算ドリル、間違い探しなど)、ラジオ体操、リズム体操、ボランティア(歌、踊り、腹話術)との交流、ケアハウスとの合同行事(3B体操、音楽教室)、法話など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけ、月に1、2回法人本部で開かれる法話の会に行きお聴聞している。気候の良い季節には手作りのお弁当を持ち公園へ行き、外で食べる気持ちよさを味わってもらっている。桜の花見はJR職員、地域交流センターの方等に協力してもらい列車に乗って花見に行き、旅の気分を感じてもらい楽しんでもらうことができた。利用者の希望も聞きドライブや苺狩り、みかん狩り、外食などに出かけている。	四季の花見(大寧寺の桜、東行庵の菖蒲)、手づくり弁当を持ってのみかん狩り、苺狩り、公園に出かけている。地元の敬老会、法人のフェスタ、夏祭り、郵便局での作品展の見学、中学校の運動会の見学、山菜取り、散歩、家族の協力を得ての外出や外食、墓参り、法事への出席など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出などで買い物をするときは、自分で品物を選んでもらい、きちんと支払いまで自分でできるように支援している。自分で少額を持っている利用者もあり、自分で財布からお金を出して購入できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状と暑中見舞いは必ず出すように支援している。また電話をかけたり、かかって来たときの取り次ぎをしている。携帯電話で自由に家族等と連絡を取られている利用者もある。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはいつも季節の花を飾り、ひな人形や五月人形で季節が分かるようにしている。利用者の作品も飾っている。キッチンからの調理の音や匂いを感じながら思い思いに過ごすことができるようになってきている。温度や湿度にも気を配り環境調整に努め居心地良く過ごせるように工夫している。	リビングの天井は高く、ゆとりのある空間となっており、季節の花や利用者の作品、お雛様など季節の飾り物が飾ってある。台所からはご飯を炊く匂いして、生活感を感じることができる。テーブルや椅子、ゆっくりとくつろげるソファを配置し、利用者がいつでも思い思いにくつろぐことができる居場所づくりをしている。温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやベンチで気の合う人と話したり、一人居室で過ごしたり思い思いに過ごせるように支援している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使い慣れた馴染みの家具を持って来られるよう勧めている。居室には家族が持ってきた人形や写真、時計などが飾ってあり居心地良く過ごされている。	テレビ、椅子、机、鏡台、時計、観葉植物、ぬいぐるみなど使い慣れた物を持ち込み、家族の写真、孫の似顔絵、手づくりカレンダー、花などを飾って、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレや廊下の住環境が適切かどうか、常に意識して観ている。居室の名札や、表示で場所がわかりやすいようにしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームひかりの園

作成日: 平成 27年 6 月 3日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議での議題と記録の仕方を工夫する	報告だけで終わらないようにする。	議題を毎回準備し内容を細やかに記録に残し会議で出た意見をサービス向上に繋げる。欠席された方には議事録を送付する事で園の実状を知ってもらい協力関係を築く。	12ヶ月
2	11	利用者の思いの記録の残し方が今ひとつである。	利用者の思いを聞きのがす事なく記録に残せるようになる。	書き込みやすい記録用紙の工夫と、職員が聞き流さないための意識改革を日々のミーティング等で話し合っていく。	12ヶ月
3	35	内部研修や消防署の協力を得て応急手当講習を受講しているがこれからも継続する。	全職員が緊急時に慌てることなく、応急手当等初期対応ができるようになる。	現在行っている勉強会や講習会などの定期的な訓練を継続する。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。